

経済レポート

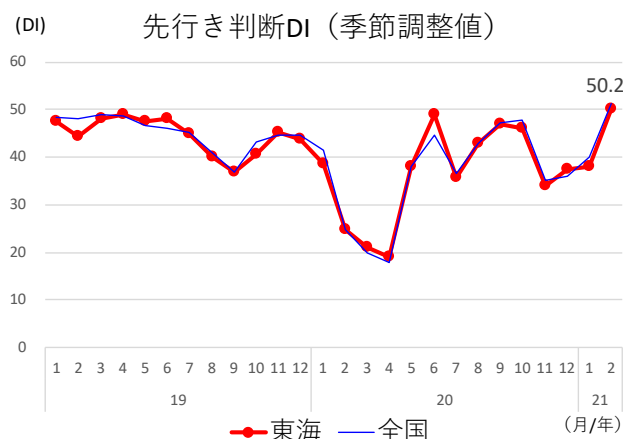
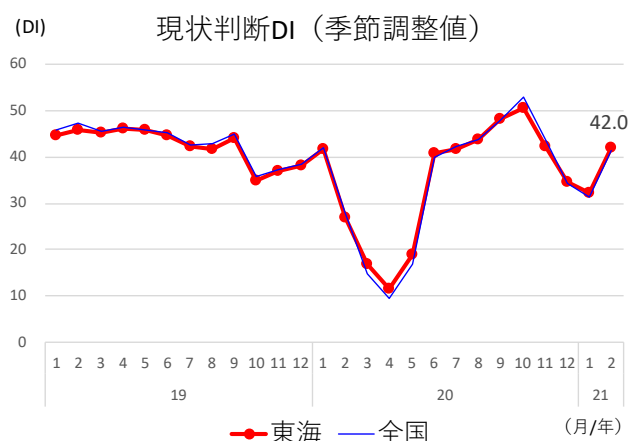
景気ウォッチャー調査(東海地区:2021年2月)

～ 緊急事態宣言が続く中、現状判断、先行き判断とも改善 ～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 3月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の2月¹の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差+9.7ポイントの42.0と4ヶ月ぶりに上昇した。
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差+12.1ポイントの50.2と3ヶ月連続で上昇した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

緊急事態宣言下で厳しい状況が続くものの、景況感は持ち直しの動きがみられる。先行きについては、緊急事態宣言解除、ワクチン接種開始への期待がみられる。

とまとめた。

(前月のまとめ)

「新型コロナウイルス感染再拡大と緊急事態宣言再発令により、景況感は悪化している。先行きについては、ワクチンへの期待はあるものの、感染拡大による景気低迷が懸念されている。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

景気は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさは残るものの、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、感染症の動向を懸念しつつも、持ち直しが続くとみている。

とまとめている。

(前月のまとめ)

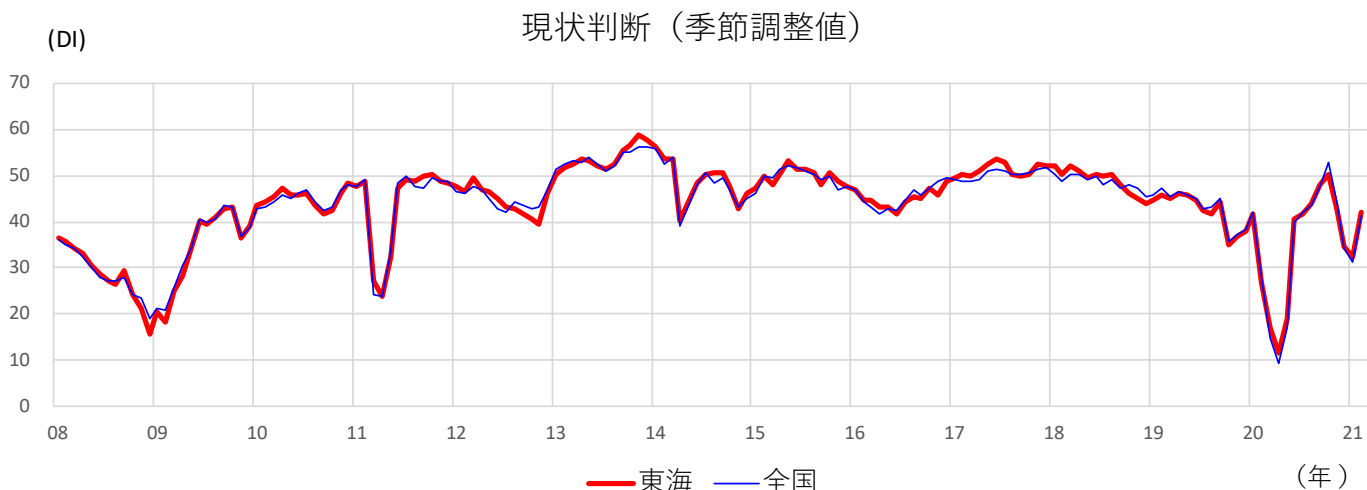
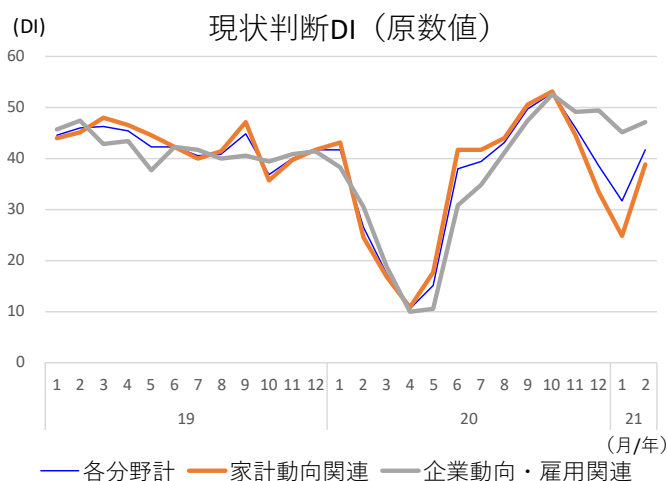
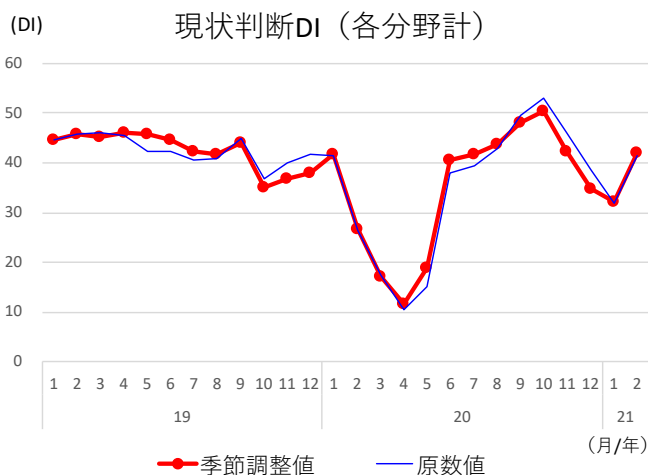
「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、このところ弱まっている。先行きについては、感染症の動向に対する懸念がみられる。」

¹ 調査期間は毎月25日～月末

1. 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

(1) DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI²(季節調整値)は、前月差+9.7ポイントの42.0と4ヶ月前ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を4ヶ月連続で下回った。緊急事態宣言下ではあるが、悪化方向の回答(「悪くなっている」「やや悪くなっている」)が減少した。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同+14.1ポイントの38.9と4ヶ月前ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を4ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDI³は、同+1.7ポイントの47.0と2ヶ月前ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を4ヶ月連続で下回った。



² 本調査のアンケート・サンプル総数は226、うち家計関連151、企業・雇用関連75。以下、先行き判断についても同様。

³ 企業動向関連と雇用関連からなるDI(原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

➤ 緊急事態宣言中ではあるが、状況は改善してきているとのコメントが増えてきている。

○	百貨店 (計画担当)	・緊急事態宣言中ではあるが、新型コロナウイルスの感染者数は減少傾向にあるなかで客は自粛疲れがあるのか、特に富裕層は売上アップの施策に対する反応が大きくなってきている。今後も旅行などアクティブな活動が制限されているなか、欲しいモノに対する購買意欲は高くなってくると感じられる。
○	乗用車販売店 (経営者)	・次世代自動車補助金利用に伴う駆け込みと、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の解除に向けた客の動きから、新車、中古車共に売上が上がっている。
□	乗用車販売店 (従業員)	・緊急事態宣言が発出されてかなり景気が落ち込むと予想していたが、意外とそこまで落ち込む気配はなく、大分収束に向かっているように感じるため、取りあえず今はそれほど悪い状態ではないと考える。

➤ 一方で、状況は変わらず厳しいという声も多い。

□	百貨店 (業績管理担当)	・11月からの新型コロナウイルスの感染再拡大以降、売上が戻ってこない。客も警戒してか来客数も低い水準のままである。
□	タクシー運転手	・相変わらず特に夜の営業は全く駄目である。年末からずっと夜の街は閑散としており、昼間も2割くらい落ち込んでいる状態であり、売上は2万円～3万円程度である。緊急事態宣言期間中、当社も2割の約130台の車を休止している。
□	その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕 (営業)	・賃貸業界は繁忙期に入っているが、緊急事態宣言下で例年よりも減少している。売上は当然3か月前よりは多いが、景気は下向きである。

【企業動向・雇用関連】

➤ 緊急事態宣言下でも、業種によっては好調とのコメントがみられる。

○	パルプ・紙・紙加工品製造業 (顧問)	・一部の取引先は、新型コロナウイルスの影響を受け受注量、販売量が減少しているが、全体的には前月に引き続き、自動車・農産物関連は回復傾向にあり、景気はやや良いと感じる。
○	電気機械器具製造業 (総務担当)	・家庭内での動画配信サービスの需要増加に伴い通信インフラの増強の要望が多く、当社においては通信系光端末機器の受注も好調で、年内の納入スケジュールは固まっている。
○	輸送用機械器具製造業 (管理担当)	・新型コロナウイルスの緊急事態宣言のなかで、外出を控えている分購買意欲が膨らんでいる。
○	輸送業 (エリア担当)	・前年は新型コロナウイルスの影響で上半期から10月くらいまでは荷物の量が落ちていたが、年末に向かって徐々に回復を始め、盛り返してきていた。今年に入ってまた緊急事態宣言があり、やや落ち込みはしたものの、回復基調は急激ではないが右肩上がり、3か月前と比べると徐々に良くなっていると物量の動きから判断できる。

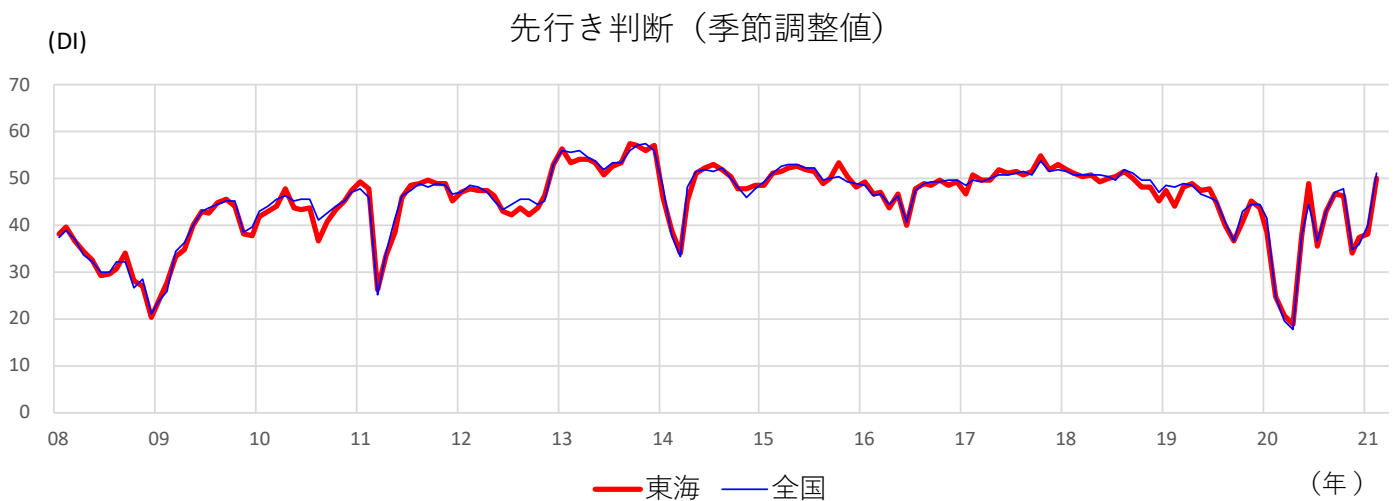
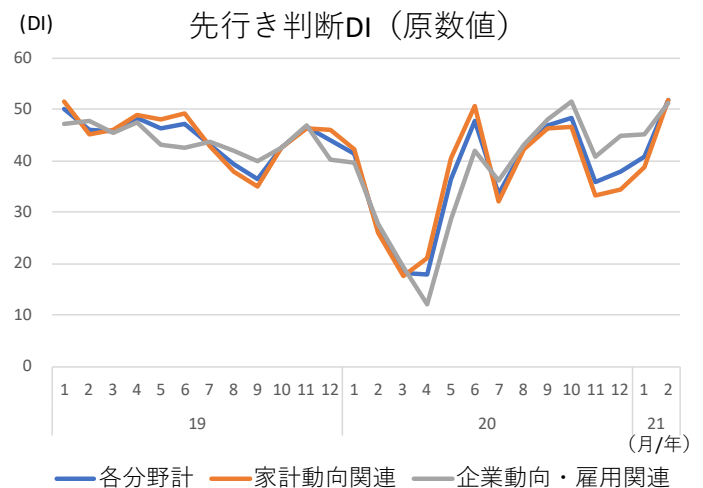
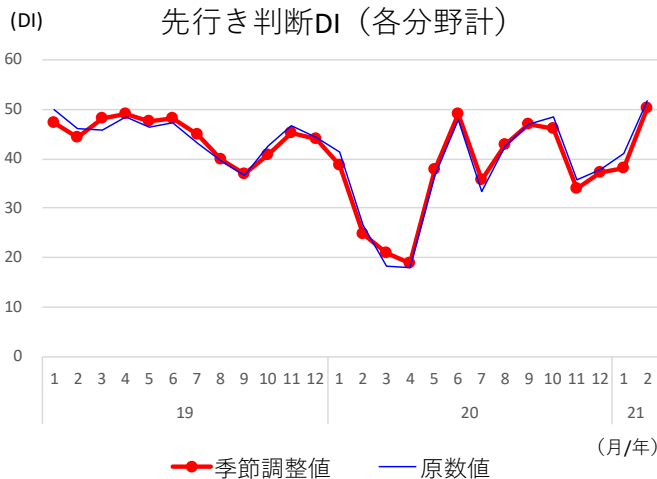
➤ 雇用関連も、方向感は改善してきているとの声が増えてきた。

○	アウトソーシング企業 (エリア担当)	・国内の新型車種及び中国の販売が好調で、大手自動車メーカー系は業務量が回復し、求人数は増加しているが採用に至らず人手不足という声も耳にする。
○	職業安定所 (次長)	・12月の新規求人数及び新規求職者数については、前年同月と比較した場合は悪化している状況であるが、前月と比較した場合はいずれも改善した数値となっている。有効求人倍率についても、前月と比較した場合1.18倍が1.21倍へと改善している。

2. 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

（1）DIの動向

- 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計：季節調整値）は、前月差+12.1ポイントの50.2と3ヶ月連続で上昇した。緊急事態宣言解除やワクチン接種開始への期待がみられる。
- 部門別に見ると（原数値）、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同+13.3ポイントの52.0と3ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を8ヶ月ぶりに上回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同+6.0ポイントの51.3と3ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を4ヶ月ぶりに上回った。



(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎: 良くなる、○: やや良くなる、□: 変わらない、▲: やや悪くなる、×: 悪くなる

【家計動向関連】

➤ 緊急事態宣言解除やワクチン接種開始に期待する声が多い。

◎	コンビニ (商品企画担当)	・3月の緊急事態宣言の解除見込みや、4月以降高齢者向けの新型コロナウイルスワクチン接種開始などの環境変化により、現状のような閉塞感は薄れ、客足が徐々に戻ってくると予測する。
○	百貨店 (経理担当)	・緊急事態宣言の解除、ワクチン接種の進展によって、反発消費が盛り上がり上がると思う。
○	スーパー (ブロック長)	・新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向であり、春に向かって暖かくなり新型コロナウイルス感染者の落ち着きが見られれば、外食、観光、新生活への消費が活発になる。
○	乗用車販売店 (従業員)	・今は皆とても我慢をしているため、新型コロナウイルスの感染が落ち着いたということがはっきりしてくれば、我慢していた反動で景気は良くなると思う。
○	都市型ホテル (総支配人)	・東京の緊急事態宣言解除と行楽シーズンでの人の往来増加を見込む。ただし、現状では予約は非常に鈍い。
○	旅行代理店 (経営者)	・緊急事態宣言が解除され、Go To Travelキャンペーンの再開に期待している。3月7日までに緊急事態宣言が解除され、Go To Travelキャンペーンが解除後すぐに再開されることを念頭に置いて判断する。
○	レジャーランド (職員)	・新型コロナウイルスの第3波が収束し、緊急事態宣言が解除されれば、客足はある程度戻ってくると考えている。前年3月は、感染拡大に伴い臨時休業を余儀なくされたので、今年の春休みは感染防止対策を徹底して客を迎えたい。
○	一般レストラン (経営者)	・緊急事態宣言の解除及び新型コロナウイルスのワクチン接種開始に伴い、今よりは幾らか良くなると思う。

【企業動向・雇用関連】

➤ 足下の改善が今後も続くと期待する声が複数みられる。

○	一般機械器具製造業 (営業担当)	・引き合いが増えているので、ここから受注となる案件も増えていくことが予想される。
○	電気機械器具製造業 (経営者)	・新型コロナウイルスの影響が段々と収束すると同時に、設備投資も行われるという期待から、景気はやや良くなるのではないかと考える。
○	輸送業 (エリア担当)	・新型コロナウイルス禍の1年が過ぎたが、ワクチン接種が始まったことによって明るい兆しが見え、将来の見通しが立ってきた。人々は、これから停滞していたものをばん回しようという基調になると思う。こうした世界中の期待感が経済に反映していくとの予測から、2~3か月後の景気は回復していくと考える。
□	電気機械器具製造業 (総務担当)	・通信業界における設備投資は当分の間、堅調と思われる。
□	輸送用機械器具製造業 (総務経理担当)	・現状と何ら変わることはない。中国向けもしばらくは堅調と思われる。気掛かりなのは半導体の生産量が自動車業界にどれだけ影響を与えるかであるが、需要自体は堅調に推移すると思っている。

➤ 雇用関連に関しては、ワクチン接種開始に期待するコメントが散見される。

○	人材派遣会社 (企画統括)	・新年度に向けた採用の動きと、緊急事態宣言解除と新型コロナウイルスのワクチン接種開始の動きにより、多少の改善が見込まれる。
○	職業安定所 (次長)	・県内での新型コロナウイルスの感染者数が減少しており、この状況が更に続き緊急事態宣言等が解除されたら、今の状況よりは良くなると思う。新型コロナウイルスのワクチン接種の効果が現れてくると想定すると、現状より改善すると思う。
○	民間職業紹介機関 (窓口担当)	・新型コロナウイルスのワクチン接種や東京オリンピックなどから先が明るい見通しを肌で感じるようになると、少しずつではあるが各業界とも上向きの要素になり得るため、一時縮小傾向にあった求人依頼も増加するのではと感じている。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1) (2) については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて D I を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、D I は 50 となるため、D I = 50 が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。